

趣旨説明・用語説明要旨

「バイリンガル・マルチリンガル子どもネット (BMCN)2017 年度大会開催に向けて」

中島和子 (トロント大学名誉教授)

BMCN の目的は、複数言語環境に育つ子どもがマルチリンガル・バイリンガル人材に育つように言語発達全体を支えることである。特に4歳—8歳の言語発達に留意して「リミテッド状況」に陥る危険性を阻止すると同時に、一時的リミテッド状況にある子どもの実態把握と指導のあり方について研究と実践を進める必要がある。主な活動は、年次大会の開催、広報活動、行政機関との連携、2017年4月に開設した「BMCN リミテッド状況相談室」の運営である。今年度の大会では、「リミテッド状況相談デスク」(7ケース)、ポスター(4本)、フォーラム「つまづく子どものためのアセスメント」(登壇者4名)と多彩なプログラムが生まれ、100名を越すメンバーが一堂に会した。「リミテッド状況」とは、複数言語環境のために言語能力が年齢相応のレベルに達しない一時的な状況を指す。機能的な障害との見分けが難しいために専門家との連携が必要不可欠である。このため今回のフォーラムは、「特別支援教育におけるアセスメント」(高橋登)、「バイリンガル児・マルチリンガル児と発達障害」(松井智子)、「WISC その他—現場で必要なアセスメントツール」(奥村安寿子・島田かおる)、「DLA (Dialogic Language Assessment)で分かるつまづく子どもの実態」(櫻井千穂)を通して、診断や指導におけるモノリンガル児とバイリンガル・マルチリンガル児の違い、特別支援教育と言語教育の視点や立場の差などに焦点を当てて、両分野の連携のあり方を探ろうとしたものである。

【参考文献】

- 田中ネリ (2017) 「複数言語で育つ子どもとその保護者のバイリンガル心理相談から見えるもの—発達障害か一時的リミテッドか：現状と課題」 子どもの日本語教育研究会第2回大会 (2017年3月11日) 発表資料
BMCN 子どもネット「リミテッド状況相談室」(2017)「日本人保護者対象質問票」
Cummins, J. (1979). Linguistic interdependence and the educational development of bilingual children. *Review of Educational Research*. 49, 222-251.
Cummins, J. (1984). *Bilingualism and Special Education: Issues in Assessment and Pedagogy*. Clevedon, UK: Multilingual Matters.
Cummins, J. (1989). A theoretical framework for bilingual special education. *Exceptional Children*. 56(2). 111-119.
Genesee, F. (2007). French Immersion and At-Risk: A Review of Research Evidence. *The Canadian Modern Language Review*. 63(5). 655-687.
Geva, E. (2000). Issues in the Assessment of Reading Disabilities in L2 Children—Beliefs and Research Evidence. *Dyslexia*, 6. 13-28.
Kalan, A. (2016). *Who's Afraid of Multilingual Education? Conversations with Tove Skutnabb-Kangas, Jim Cummins, Ajit Mohnty and Stephen Bahry about the Iranian Context and Beyond* (PDF EPUB). Multilingual Matters.
Skutnabb-Kangas, T. and Dunbar, R. (2010). Indigenous Children's Education as Linguistic Genocide and a Crime Against Humanity? A Global View. *Journal of Indigenous Peoples Rights*. No. 1.

以上